



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

©じほう 2015

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

高齢者宅での「残薬解消プロジェクト」に着手 フレンド ケアマネに薬剤師が同行、無償で対策

調剤薬局や介護事業を展開するフレンド（栃木県）は、高齢者が抱える残薬や重複投与の問題を改善するプロジェクトに乗り出した。同社の調剤薬局事業部の薬剤師と在宅介護事業部のケアマネジャー（介護支援専門員）が連携するのが特徴で、訪問対象は同社の在宅サービスを受けていない高齢者。ケアプランの見直しや日々の状態確認などで定期的に訪問しているケアマネに薬剤師が同行し、残薬の整理や飲み忘れ対策などを講じる。無償のため、直接的な収益増には貢献しないものの、顧客サービスや地域貢献の一環として取り組んでいく。

●認知症や独居、老老介護など的高齢者を優先

プロジェクトの名称は「残薬解消プロジェクト」で、7月に社内チームを発足させた。メンバーは同社で在宅を行っている薬剤師3人と経験豊富な主任ケアマネ4人の計7人。ケアマネは高齢者宅への訪問で残薬の実態を知る機会が多いとみて、薬剤師と組むプロジェクトを立ち上げた。今のところ、同社在籍のケアマネ約60人中31人、薬剤師87人中22人が参画することになる見通しだ。

訪問は7月中旬から試験的に開始。8月から本格的に行う。当面は地盤の栃木県を対象とするが、将来は地域を拡大する可能性もあるという。

訪問対象となるのは、同社のケアマネが担当する高齢者のうち、残薬が多い人や何種類もの薬が処方されている人たちで、特に認知症や独居、老老介護など必要性の高い層を優先する方向だ。薬剤師の訪問に当たっては事前にケアマネが高齢者から承諾を得る。薬剤師は後日、ケアマネに同行する形で訪問し、高齢者宅で残薬の調整や薬の重複・飲み合わせなどを確認。薬の整理整頓・相談・飲み忘れ対策などを行う。

患者の中には、残薬はあるものの罪悪感から医師に伝えられないという人も多いという。このため、同プロジェクトでは患者の「意識改革」も同時に行っていく。

●10年前に期限が切れている外用剤も

7月から試験的に訪問し始めた高齢者は、宇都宮市や小山市に住む82～93歳の男女3人。滞在時間はいずれも1回当たり1時間以上に及んでいる。そのうちの1人は

服用できない残薬が6種類、もう1人はOTC医薬品を含めて8種類もあった。残薬は外用薬が多く、中には10年前に期限が切れている外用剤や変色している軟膏などもあったという。訪問結果などの記録は、紙に残した上で各薬局で保管し、本部で一括管理する。

薬剤師が訪問する際は初回のみ、ケアマネ1人・薬剤師2人の体制で訪れ、2回目以降はケアマネ1人・薬剤師1人で訪問する。訪問した薬剤師は「慣れているケアマネジャーに同行してもらえると非常にやりやすい」と話し、ケアマネと連携する利点を口にする。同社では今後、ケアマネが高齢者に説明するためのリーフレット「おくすり安心みまもり隊」や同意をもらうための個人情報取扱書などを作成する予定だ。

同社は栃木、東京、神奈川、埼玉に計21店舗の調剤薬局を運営。介護保険制度が施行された2000年からは介護の分野にも取り組み、現在は栃木県を中心に在宅介護事業所40事業所を持つ。在宅介護事業部ではデイサービスセンター、グループホーム、小規模多機能型施設などを手掛けている。

■ココカラファイン

認知症で独自のサポーターを養成へ、来期にも開始

ドラッグストアのココカラファインは、認知症に関する独自のサポーター制度の構築に乗り出す。今期（2016年3月期）中に研修の骨子を構築し、来期にも養成を開始したい考え。高齢者が増える中、サポーターを通して、認知症に関する適切なアドバイスを行うことで認知症の早期発見やQOLの下支えなどにつなげる。

認知症に関する独自のサポーターの正式名称は今後詰める。主に薬剤師を対象に年4回以内の研修を開催することを想定。講師には社外の専門家を立てる方向だ。自治体などが行う「認知症サポーター養成講座」や、日本薬局学会の「認知症研修認定薬剤師制度」に準じた同社独自のサポーター制度を構築していく。

●糖尿病サポーターは約40人

一方、同社が前期から始めた独自の「糖尿病サポーター」は現在までに約40人を認定した。今期から2期目に入っており、2期目も40数人が受講している。薬剤師が中心だが、中には管理栄養士もいる。

受講や課題をこなして社内で認定しており、講義は年4回行う。講師は社外の専門家に依頼。基礎的な内容は各自が事前に勉強し、講義は中級以上の内容にしている。ココカラファインヘルスケアの福井靖和取締役調剤事業部長は、この糖尿病サポーターを将来「1店舗に2～3人くらい」配置できるまで増やしていきたい考えだ。

同社の糖尿病サポーターは糖尿病患者や糖尿病予備群からの相談を受けたり、情報提供を行ったりすることを主な業務としている。